Kiyo Muraguchi Women's Clinic

きよくり news

VOL 73
2022.7 発行

Muraguchi Kiyo Women' s Clinic

CONTENTS

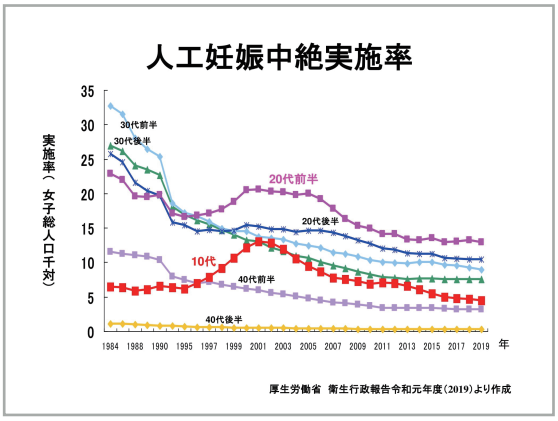
・開院して四半世紀、
　産婦人科医療に関わって
・子宮頸がんを減らしたい
・私のオフタイム
　～自分の身体に
　　向き合い始めました～

開院して四半世紀、 産婦人科医療に関わって

第 151 回東北連合産科婦人科学会で発表しました

演題名「当院における初期人工妊娠中絶数、 22 年間の推移から見えてくるもの」

院長　村口 喜代



去る 5 月 14 ～ 15 日に仙台国際センターで第 151 回東北連合産科婦人科学会・学術講演会が開催された。 クリニックを開院して 23 年、 まもなく四半世紀を迎えるが、 昨年までに関わった初期人工妊娠中絶数をまとめて報告した。

1999 年開院以来、 中絶数はどんどん増え続けた。 2003 ～ 2004 年をピークに減少に転じ、 以降減少の一途を辿っている。 うち未婚者の中絶数が 8 割を占め、 未婚者の減少率は今や 90%を超え、 特に 10 代 20 代前半の若者に顕著だった。 一方既婚者の減少率は 40 ～ 50%に止まった。 **未婚者の中絶数が、急増加し、急減少**したが、それは厚生労働省衛生行政報告でも、10 代 20 代前半の若者においては同様の結果だった。

1974 年から 6 年ごとに実施してきた日本性教育協会の「青少年の性行動調査」では、 大学生、 高校生の性交経験率が毎回上昇し続けてきたが、2011 年に男女ともに減少に転じ、2017 年にはさらにその傾向は加速し、不活発化が進行した。しかしそれは均一に進むものではなく、 活発な層と不活発な層への複雑な分極化の様相を呈したと報告された。 **若者の性行動パターンが大きく方向転換**したのである。

国立社会保障・人口問題研究所によると、 50 歳までに一度も結婚しない人の割合「生涯未婚率」は、 年々増加し 2020 年には男性が 25.7%（4 人に 1 人）、女性が 16.4%（6 人に 1 人）にまで上昇した。 18 ～ 34 歳の若い男女の「交際相手がいない」割合も男性 69.8%、 女性 59.1%という。 一方夫婦のセックスレスが増加し半数に達するなど、 性行動の消極化の流れは、 いまや日本社会全体を覆っているのである。

日本人の生き方が変わり、 性行動は大きく変貌した。 1990 年以降の日本社会に何があったのか思い出すままに振り返ってみた。

バブル崩壊による日本経済への大打撃、 経済的低迷・不安定性が慢性化し出口が見えない。 非正規労働者は増え続け 2020 年 37.2%に達した。 格差社会の進行、 日本人口の 6 人に 1 人は、 相対的貧困という。 一方、 情報化社会の到来、SNS、 インターネットの進化・普及、 デジタル化の進行はめざましい。 また一方では、 東日本大震災、 頻発する自然災害、かてて加えて新型コロナウイルス感染症が追い打ちをかけ、 大変な四半世紀だったと愕然とする。

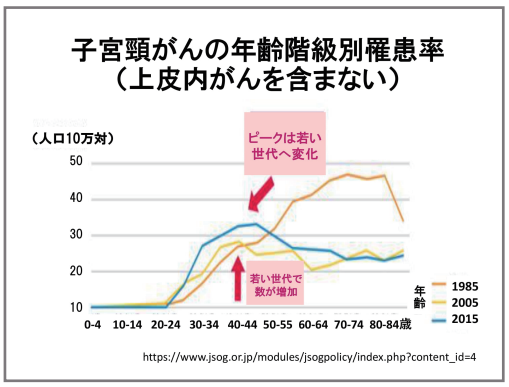
こうした時代に産婦人科医療に関わり、 日本社会の深層に触れることができたこと、 とても感慨深い。 しっかり語り継いでいきたいと思う。

子宮頸がんを減らしたい

看護師　畑山早苗

日本の子宮頸がん死亡率は他のがんに比べて増加傾向にあります。 罹患率について 1980 年代と 2000 年代を比較すると、 1980 年代では 70 ～ 80 代が罹患のピークでしたが、 2000 年代では 30 代から増加し 40 代でピークになっています。 つまり、 若い人がかかる病気に変化しているのです。

子宮頸がんは予防できるがんと言われているのにもかかわらず、 増加傾向にあるのはどうしてでしょうか？原因は 2 つあり、 一つ目は子宮頸がん予防ワクチンの接種率の低さ、 2 つ目は子宮頸がん検診の受診率の低さと言われています。



子宮頸がんワクチン接種率の低さ

子宮頸がん予防ワクチンの接種率について、 ワクチン先進国のイギリスが 85%であるのに比べて日本は 0.6%と圧倒的に低くなっています。 日本では 2013 年に子宮頸がん予防ワクチンの定期接種が開始され、 無料で受けることができるようになりましたが、 副反応の訴えによりわずか 2 ヵ月で積極的勧奨が一時停止となりました。 停止されている間でも、 接種自体はできましたが、 副反応への懸念と積極的勧奨の停止により接種率増加には繋がりませんでした。 それから時間が経ち 2020 年 11 月、 積極的勧奨が再開されました。 対象である現在中1～高1の女子はこれまで通り、 無料で接種することができますが、 停止されていた時期に対象であった方（平成 9 年 4 月 2 日～平成 18 年 4 月 1 日生まれの女性）にも公平に受けてもらえるようにしたのが今年 4 月から始まった「**キャッチアップ接種**」です。 当院ではキャッチアップ接種の対象となる方には声をかけ、 受けていない方には接種を勧めています。

受けていない方に説明をしていく中で「全然聞いたことがない」「なんとなく聞いたことがあるけど受けていないと思う」という声がよく聞かれます。 また、 受けた記憶があっても「3回目は受けていない」「親に受けさせられたが何のためだったのか分からない」という人もいます。 対象年齢だった当時（小学 6 年生～高校 1 年生）、 受けるかどうかはほとんどが親の判断だったのでしょうから仕方のないことかもしれません。 しかし今後は「子宮頸がんの原因は HPV 感染である」ことを知り、 なぜ接種する必要があるのか、 自分のこととして捉え考え判断し、 子宮頸がん予防ワクチンを接種してほしいと思います。 毎回、 そのような思いで説明をしています。

子宮頸がん検診 受診率の低さ

次に、 子宮頸がん検診についてです。 子宮頸がん予防ワクチンを受けても 100%予防できるわけではありませんので、 子宮頸がん検診が同時に必要となります。 20 歳で配布される無料クーポンをきっかけに検診率が上がればいいのですが、 受けたことがないという人が多いのが現状です。 仙台市健康福祉局健康政策課のデータによれば、 令和 2 年度 20 歳の対象者 5693 名のうち、 クーポンを利用した者は 807 名（14.1%）にとどまっています。 年齢を問わず、 世界に比べて検診受診率が低いのが日本の特徴であり、 それが子宮頸がん増加のもう一つの理由とされています。

若いうちからワクチン接種をきっかけとして子宮頸がんについて関心を持ち、 それをきっかけに定期的な検診を受けて欲しい、 そうすることが早期発見や死亡率の低下に繋がると思っています。

私のオフタイム　～自分の身体に向き合い始めました～

看護師　早坂 恵

前号のきよクリNEWSでも取り上げていた「たんぱく質」。
今年 3 月から私も 1 日 60g（毎食 20gずつ）を目標に摂取しています。 特に意識しているのは朝です。 忙しい朝でも簡単に摂れる高たんぱく質ヨーグルトやプロテイン入りグラノーラ、 それにプラスしてビタミンも必ず摂っています。 4 ヵ月継続していますが、 身体の調子が良い気がしています。 たんぱく質を中心とした献立にしてから、 体重も少しずつですが減っています。

あと数年で 50 代に突入します。 健康で元気に過ごすため、 家族を巻き込んで高たんぱく生活を続けていきたいと思います。

臨時休診

〇お盆休みは、 8/15(月)-18(木) となりますのでご了承ください。

発行元：村口きよ女性クリニック
http://www.muraguchikiyo-wclinic.or.jp
e-mail:con@muraguchikiyo-wclinic.or.jp